

令和6年度 内部質保証による 自己点検・評価報告書



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

令和6年度 内部質保証による自己点検・評価の 実施概要

自己点検・評価の「目的」

大学が自律的な組織として、理念や目的を実現するために、自らが行う教育及び研究並びにそれらを行うための組織、運営、施設及び設備の状況について継続的に点検・評価し、絶えず改善・向上に取り組むことを目的とする。

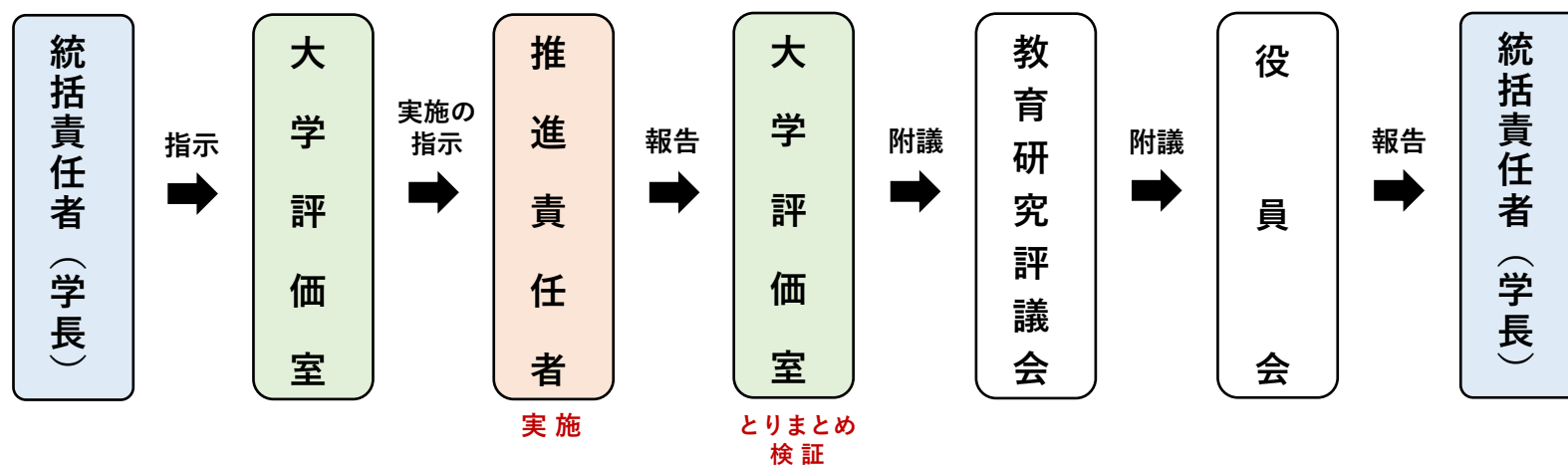
自己点検・評価の「実施対象・方法」

「群馬大学における内部質保証に関する方針」、「群馬大学における教育の内部質保証に関する方針」、及び各推進責任者等が定める「自己点検・評価及び改善実施要項」に基づき、以下の対象分野について責任主体組織及び推進責任者が定める組織において、自己点検・評価を実施する。

区 分	対象分野	推進責任者	責任主体組織
教育活動	教育課程	理事（教育・評価担当）	責任主体組織（評価） 大学教育・学生支援機構 教育アセスメント委員会 責任主体組織（改善） 大学教育・学生支援機構 大学教育センター 学部教務委員会、大学院教務委員会
	学生支援	理事（教育・評価担当）	大学教育・学生支援機構 学生支援センター運営委員会
	留学生支援	理事（教育・評価担当）	大学教育・学生支援機構 グローバルイニシアチブセンター運営会議
	学生受入	理事（教育・評価担当）	大学教育・学生支援機構 アドミッションセンター運営会議
研究活動	研究活動	理事（研究・企画担当）	研究・産学連携推進機構会議
施設設備	施 設	理事（総務・財務担当）	施設・環境推進室
	情報設備・図書館	総合情報メディアセンター長	総合情報メディアセンター運営委員会

自己点検・評価の「実施体制」

- ① 統括責任者（学長）・大学評価室の指示のもと、内部質保証の対象分野ごとに推進責任者が、責任主体組織において実施する。
- ② 推進責任者は、結果を大学評価室に報告し、大学評価室においてとりまとめ・検証を行う。
- ③ 大学評価室は、結果を教育研究評議会・役員会に附議し、統括責任者（学長）へ報告を行う。
統括責任者は、必要に応じて意見を付し、推進責任者へ改善計画の策定・実施を指示する。



令和6年度 の 実施状況

各推進責任者等が定める「自己点検・評価及び改善実施要項」に基づき、自己点検・評価が実施されていること 及び 自己点検・評価の結果、優れた点及び改善すべき点があることを確認した。

※具体的な結果については、次頁以降、対象分野ごとに記載する。

【教育活動】教育課程

■ 実施対象

13の教育課程（学士課程：教養教育・3学部・2学科）（大学院課程：5研究科・2学環）

■ 点検・評価事項

- ・各教育課程の学位授与方針、教育課程方針及び学位に対する学修成果の達成水準
- ・各教育課程における教育内容、方法等

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

■ 優れた点

学部等	概 要
全教育課程 【継 続】	【群馬大学LMSの整備・活用】 群馬大学LMSにおいて、授業科目ごとのコースが設定され、教材の公開、テスト・アンケートの実施、課題の確認などで利用されている。教員、学生ともに、いつでもどこからでもアクセスすることができ、学生の自発的な学習や教員と学生とのコミュニケーションを促すための多様な機能により、対面授業を補完するツールとして役立てられている。
共同教育学部	【卒業要件単位数の見直し及びカリキュラム改編】 共同教育学部は令和5年度に完成年度（※）を迎えたため、より深く学習できるよう教育効果に配慮した上で、卒業要件単位数を155単位から140単位に減少させ、科目を見直すこと等により、カリキュラム改編を行った。 （※）最初に入学した学生が卒業する年度
	【卒業時アンケートの宇都宮大学との共通化と実施】 共同教育学部完成年度に際して、共同教育学部自己点検・評価委員会において、卒業時アンケートの共同教育学部としての取り組み部分について、両大学間で項目を共通化した上で実施した。

【教育活動】教育課程

■ 優れた点

学部等	概 要
理工学部 【継続】	【メンター制の導入によるマンツーマンの学生指導】 令和3年度入学生より、1年次からメンター教員（相談・世話役）がマンツーマンで指導。学生一人ひとりにメンター教員が付き、プログラム選択や履修、進路に関する様々な相談を行っている。
理工学府	【複数教員による指導体制】 学生1名につき、複数の教員（指導教員1名、副指導教員1名）による指導体制を敷いている。

【教育活動】学生支援

■ 実施対象

学生支援全般

■ 点検・評価事項

- ・ 学生生活に関する支援の状況
- ・ 学生の健康に関する支援の状況
- ・ 就職等進路に関する支援の状況
- ・ 学生の課外活動に関する支援の状況
- ・ 学生の経済面に関する支援の状況
- ・ 各種ハラスメント防止に関する措置の状況
- ・ 障害のある学生に関する支援の状況

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

■ 優れた点

	概 要
【学生支援】	【奨学金給付等】 ・ 経済的困窮学生に対する修学支援金給付（大学院生対象、大学独自） 20万円を12名に給付 ・ 能登半島地震被災学生に対する支援金給付（大学独自） 2万円を4名に給付 ・ 入学料免除及び授業料免除等（文部科学省支援、大学独自） 【その他の支援】 ・ 全学生を対象としたセルフケアセミナー（全5回）の実施 ・ 心理カウンセリングを、学生の希望に応じて対面又はオンラインで実施 ・ ライブ配信や収録動画配信により就職ガイダンスを実施 ・ 就職相談（キャリアカウンセリング）を、学生の希望に応じて対面又はオンラインで実施 ・ 障害学生に対する情報保障サポート

【教育活動】留学生支援

■ 実施対象

留学生支援全般

■ 点検・評価事項

留学生の生活に関する支援の状況

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。



留学生のホームルームの様子

■ 優れた点

	概 要
【留学生支援】	【多言語対応による留学生支援】 海外交流課職員とグローバルイニシアチブセンター教員が一体となって、多言語対応により留学生の手厚い支援を行っている。 【交流促進活動】 荒牧キャンパスにおいて留学生向けホームルームを実施し、留学生の在籍確認、および留学生同士の交流、日本人学生との交流を図った。

【教育活動】学生受入

■ 実施対象

学生受入全般

■ 点検・評価事項

- ・ 学生受入方針が明確に定められていること
- ・ 学生受入方針に沿った学生受入の実施状況
- ・ 実入学者数の状況

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、概ね適切に実施していることを確認した。

入学定員の充足率については、一部の研究科において「改善すべき点」があった。

■ 優れた点

	概 要
【学生受入】	【新選抜制度の導入】 令和6年度から新たな入学者選抜として、プログラミングなどの高度なスキルを持つ者を対象にした総合型選抜「iTFL（information Technology Frontier Leader）入試」や外国籍で日本語が不得手な高校生を対象にした総合型選抜「外国人生徒等入試」を実施する。

【教育活動】学生受入

■ 改善すべき点

以下の研究科においては、入学定員を**大幅に下回る**、又は**大幅に超える**状況となった（※）。
適正な在籍者数を維持するため、入学定員充足率の状況を継続的に把握し、改善方策に基づき改善のための取組を進めていく必要がある。

研究科名	専攻名（課程区分）	充足率（入学定員）	判 定
情報学研究科	情報学専攻	0.65 倍 （ 60 名）	未充足（大幅に下回る）
医学系研究科	生命医科学専攻（修士課程）	1.33 倍 （ 15 名）	超過（大幅に超える）
理工学府	理工学専攻（博士前期課程）	1.31 倍 （254 名）	超過（大幅に超える）

※「1.3 倍以上」、又は「0.7 倍未満」の場合は、「大幅に超える」、又は「大幅に下回る」としている。

なお、充足率の判定にあたっては、令和6年10月入試による入学者は含まれていない。

■ 複数年にわたる改善計画の進捗状況

以下の研究科においては、昨年度の入学定員充足率において、入学定員を大幅に超える（1.3倍以上）、又は大幅に下回る状況（0.7倍未満）となっていたが、昨年度に策定した改善計画の実施を受けて、充足率が改善した。

研究科名	専攻名（課程区分）	充足率（R5）	充足率（R6）
教育学研究科	教育実践高度化専攻（専門職学位課程）	1.30 倍	1.25 倍
社会情報学研究科	社会情報学専攻（修士課程）	0.50 倍	令和6年度 情報学研究科設置により募集停止
保健学研究科	保健学専攻（博士後期課程）	1.40 倍	1.0 倍
理工学府	理工学専攻（博士後期課程）	0.64 倍	0.84 倍

【研究活動】

■ 実施対象

研究活動全般

■ 点検・評価事項

- ・研究活動の支援体制の整備の状況
- ・研究倫理教育の実施状況

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

■ 優れた点

	概 要
【研究支援】	【重点支援プロジェクトの成果】 学内研究支援として行ってきた「重点支援プロジェクト」に関して、大学の強みを育てるというプロジェクトの目的を着実に果たしている。 例えば、昨年度でG2（※）の支援が終了した2つのプロジェクトについては、支援期間中の外部資金獲得総額が約7億8千万円に達するなど、顕著な実績をあげている。 ※群馬大学の強み・特色として高い可能性を有すると考えられる研究プロジェクトへの支援(G3)の支援期間満了後、昇格審査を行い、さらなる支援を行う制度。

【施設設備】施設、情報設備・図書館

■ 実施対象

- ・教育研究、自主的学習や課外活動等のための施設
- ・情報設備、図書館運営全般

■ 点検・評価事項

- ・施設の整備状況
- ・自主的学習環境整備の状況
- ・図書館運営に関する項目
- ・施設の安全性の状況
- ・情報設備に関する項目

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

■ 優れた点



（図）「郷土かるたコレクション」デジタルアーカイブ

	概 要
【情報設備】 【図書館運営】	ファイアウォール脆弱性を突いたランサムウェア攻撃が流行している状況などを踏まえて、通常のサーバのセキュリティアップデートに加え、2023年度からUTM装置（全学のファイアウォール）についても、年に1度の定例のセキュリティアップデートを実施している。
	中央図書館が所蔵する郷土かるたの札画像が閲覧できる、全国でも稀なサイトとして「郷土かるたコレクションデジタルアーカイブ」（https://carta.media.gunma-u.ac.jp/）を運用し、令和6年3月末現在で全国185種の郷土かるた画像を公開している。令和3年3月の公開以来、令和3年度は15万ページビュー、令和5年度は40万ページビューを超え、令和6年度の指導者用デジタル教科書（日本文教出版、小学校1年生道徳）への掲載や、自治体が開発中のアプリへの画像提供など、郷土学習や研究、地域振興事業への活用繋がっている。
	文部科学省オープンアクセス加速化事業に採択され、獲得資金により、茨城大学とも連携してオープンアクセス推進に向けた体制整備を加速している。